

臨床研究に関する情報公開および研究協力へのお願い

2018年から2023年にくも膜下出血のために当院で入院加療を受けられた患者さんは下記をご覧ください。

【研究課題名】 くも膜下出血後の脳血管攣縮の発生状況および投薬に関する研究

【研究期間】 2018年から2023年にくも膜下出血のために入院加療を受けられた患者さんを対象とします。

【研究責任者】 福井赤十字病院 脳神経外科 山本 優

【研究目的と意義】

くも膜下出血の患者さんにおいて、脳血管攣縮（れんしゅく）という脳血管が縮まる病態が起こります。脳血流が著しく低下した場合には脳が損傷を受け、意識障害や手足の麻痺といった重篤な後遺症を残す可能性があるからです。脳血管攣縮の治療方法として、くも膜下出血の排液や薬物治療、点滴管理、血管内治療が挙げられます。脳血管攣縮は古くから知られた病態ですが、時代とともにその治療内容が変遷しています。近年では、新薬の登場によって選択肢が増えました。このため、どのような治療をどのように行うことが脳血管攣縮に対して効果的であるかを検討する必要となりました。

【研究の方法】

福井赤十字病院で2018年から2023年にくも膜下出血のために入院加療を受けられた患者さんを対象とします。診療録を参考に年齢、性別、既往疾患、生活歴、症状、手術所見、画像所見、治療経過、脳血管攣縮発生状況、合併症、予後といった情報を解析します。すでに登録されたデータを使用するため、新たに検査や経済的負担生じることとはございません。またご希望があれば、研究実施計画書及び研究の方法に関する資料を閲覧することが可能です。本研究は福井赤十字病院倫理委員会審査ならびに病院長の許可を受けて実施するものです。

【個人情報の保護】

収集したデータは匿名化して用います。この研究の全ての過程は、個人情報の保護に関する法律、国が定めた倫理指針「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に則って、個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても個人が特定されない形で行います。

【研究協力の任意性と撤回の自由について】

本研究は診療録を基にした患者さんのデータを利用します。「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」によると特に文書で同意をいただく手続きが必要ないとされております。しかし、ご自身の情報を使用されたくない患者さんもおられるかと思えます。その場合は研究に含めませんので、お知らせ下さい。研究への協力を希望されない場合、あるいは不明な点やご心配なことがございましたら、ご遠慮なく下記の研究担当者までお知らせください。

【問い合わせ先（研究担当者）】

福井赤十字病院脳神経外科 山本 優
〒918-8501 福井県福井市月見2丁目4番1号
TEL 0776-36-3630（代）